

令和3年度 第1回霧島市子ども・子育て会議（会議要旨）

開催日時		令和3年9月25日（土）14:00～15:40		
開催場所		国分シビックセンター 複合施設棟 3階 国分公民館 大研修室		
出席者	委員	松崎 優、山口 義幸、若松 忠洋、立藏 順子、田間 美沙緒、谷口 昌枝、坂元 京子、磯野 直子、若松 洋子、西川 純子、森吉 研一、迫 恵理子、戸越 あかね		
	事務局	林 保健福祉部長、宮田 子育て支援課長、村岡 子育て支援課課長補佐兼保育・幼稚園グループ長、出口 同課グループ子ども・子育てグループ長、松下 同課同グループサブリーダー、竹内 同課保育・幼稚園グループサブリーダー		
欠席者		無		
公開・一部非公開又は非公開の別		公開	傍聴人数	1人
<p>会次第</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 委員変更等について</li> <li>3. 協議等             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育・保育施設の定員設定について</li> <li>(2) 第2期霧島市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>4. 閉 会</li> </ol>				
<p>【会議要旨】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員変更等について</li> <li>3 協議等             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育・保育施設の定員設定について</li> </ol> </li> </ol> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から説明を行う。</li> <li>・全委員が承認し、付帯意見は無い。</li> </ul> </div>				
<p>主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重久保育園は、近年の動向を踏まえて定員減となっているが、各年齢の定員においても問題はないか。</li> <li>→ 現状を踏まえた定員減となっている。</li> <li>・ 国分愛の園幼稚園は、1号の定員しかないが、今後、施設の有効活用として、2・3号の定員を設けるなどの認定こども園移行を検討されてもよいのではと思う。</li> <li>・ （仮称）高千穂保育園は、各年齢の定員においても問題はないか。</li> <li>→ 現状を踏まえた定員減となっている。</li> <li>・ 民営化に伴い高千穂保育園を運営する予定の法人はどこになるのか。</li> </ul>				

→ 鹿児島空港にある保育園と敷根にある保育園を運営している社会福祉法人清心福祉会を予定している。

### (2) 第2期霧島市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について

- ・事務局から説明を行う。
- ・全委員が承認し、承認される。

#### 主な意見等

- ・ 2号定員が少ない。
  - ・ 定員のみで評価ができないと思う。また、企業主導型保育事業の定員枠についても把握してほしい。
  - ・ 放課後デイサービスは放課後児童健全育成事業の中に入っているのか。
- 入っていない。放課後児童健全育成事業の児童クラブのみである。
- ・ 放課後児童健全育成事業についても、事業所の一つ一つをチェックする必要があるのでは。空き家ができたら児童クラブができていたことがある。
  - ・ 企業主導型保育事業の運営者は、どのような運営をしているのか。保育に適した環境を整えているのか。事故が多いように感じる。
  - ・ 子育てのサービスの広報・周知を更に行ってほしい。
  - ・ 児童クラブについて、定員や面積要件も若干曖昧に感じている。待機児童の解消のため新設は必要だが、子どもを預かる場として適切なか確認の必要を感じる。
  - ・ 児童クラブの支援員に対する障害児保育研修は大変ありがたい。今後も引き続き行っていただきたい。また、児童クラブの支援員に対する研修の機会も設けてほしい。

### (3) その他

事務局から、「各施設が新型コロナウイルス感染症対策として行っている独自の取組（保護者に対する当園自粛の協力依頼）」について、意見を求める。

#### 主な意見等

- ・ 小学校では、校長判断によって対策を実施していると聞いているが、いかがか。
- 校長判断ということではなく、基本は国から示された「新しい生活様式」に関する通知の中で、地域の感染状況のステージを踏まえ対策している。
- ・ 園は、市や保健所の指導が無い限り、原則開所すべきであり、罹患者（陽性）・濃厚接触者でもない場合は、園児に登園自粛を求めることはできないと考えている。
  - ・ 幼稚園関係では、2学期に入り自由登園としたところもあったようだ。保護者に協力を求める際に、保育料や給食費については説明が必要な事項であると思う。ただ、それぞれが独自に行っており、すべてを把握はしていない。鹿児島市では、市が施設へ要請しているとの新聞記事があった。今後も市と連携して対策をとっていきたいと考えている。また、5月はコロナ感染が小学校で確認され、兄弟姉妹の罹患等に伴い

幼稚園においても対応を検討することがあった。幼稚園と小学校で連携をとり、対策を講じていきたいと考えている。

- ・ 登園自粛の要請など各園が独自に感染拡大防止に取り組むことは分かるが、他の園では休まなくてよかったのに、私の園では休むように言われたというような認可園で違う対応が納得できないのではないかと考える。市として判断基準を示すべきではないか。
- ・ 子育てや保育において三密は避けられないと考える。施設を管理する上で一番怖いのはクラスターの発生である。また、登園自粛を行うと、最近ではSNSを使って、「あの園に通う子どもは最近登園していないから園にコロナ感染者が出たんじゃないか?」、「あの子登園していないから陽性じゃないか?」という風評による人権問題が起きているように思う。
- ・ 別々の園に子どもを通わせる保護者もいて、園で陽性者がでて、2週間の休園となった際に、陽性者が出た園に通う子どもは休んで、違う園に通う子どもは登園しているのはどうなのかと思った。

#### その他自由意見

- ・ 児童クラブ支援員へのワクチン優先接種について大変助かった。
  - ・ 発達支援の巡回相談員による相談の機会を増やしてほしい。
  - ・ DV等について、従前より増えていると感じる。保育教諭、保育士等も配慮した対応ができるように、霧島市における事例を参考に研修の機会を設けてほしい。
  - ・ 利用定員を減らすのは保育士が足りていないからではないかと思う。市として取組はあるのか。また、他の市などでは子育てに関心のある人々が研修を受け、施設で働く取組があるようである。市はできないのか。
- 国の取組であり、鹿児島県が年2回程の研修を行っている。
- 保育士等の養成学校としての立場から、昨年度は89名の卒業生があり、求人事業者は503件あった。単純に事業者あたり2人の求人数としても1000人を超える求人である。地元での就労を期待しているが、約15%が県外に就労している。東京など家賃補助があり、また生徒も若いうちじゃないと都会に出られないとあって都会に就労している。しかし、結果として地元になかなか帰ってこないようである。地元で働く魅力をもっと伝えていけたらと考える。

#### 4. 閉会